

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	40730000491		
法人名	(株)データベース		
事業所名	グループホーム我楽ちくしの		
所在地	福岡県筑紫野市大字山口865-1 (電話) 092-929-3100		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 12 日	評価結果確定日	令和 5 年 1 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・ 入居者様本位の生活が出来るように支援している。・ 地域との連携を大切にしている。・ 一汁三菜の充実した職員手作りの食事を提供している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 4 年 11 月 16 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は、九州自動車道筑紫野インター近くの山間の集落に位置し、周辺は自然豊かで静かな場所である。「我が家」のような雰囲気の中で暮らしていただくことを方針とし、手作りの美味しい食事や居心地の良い空間作りを大切にしている。また、入居者との対話を重視し、信頼関係を大切にし、利用者の思いに沿った支援を心がけている。</p>

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの後、理念の唱和を行い、意識付けをしている。	法人の方針として、我が家のように暮らしていただきたいとの思いがあり、事業所においても、その方針を基に事業の目的や方針を定め、理念を掲げている。職員は日々の申し送りで唱和し、実践に繋げるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響により行事開催の頻度が少なくなっているが、地域行事への参加、地域への清掃作業等に積極的に参加している。	コロナ禍で地域行事は中止しているが、町内会の回覧板の情報を基に、地域清掃や神社のしめ縄作り等に参加し、地域の方々と交流している。コロナ禍前は、地域の祭りに参加したり、事業所主催で地域の方とバーベキューを開催する等、積極的に交流していた。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症サポーター養成講座に参加したり、地域の集まりに参加し、施設の説明などを行っていたが、コロナウイルスのため自粛している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、包括、地区の方々から情報を頂き活用している。現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、運営推進会議を書面にて確認して頂き、意見を頂いて、サービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。構成員は利用者の家族、市高齢者支援課、地域包括支援センター、区長、民生委員である。コロナ禍のため、現在は書面での開催とし、事業所の報告等を行うほか、メンバーからの意見等をもらうようにしている。感染症対策や事故防止等について意見があり、改善に向けて取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出時や運営推進会議の際に意見を頂いたり質問等を行っている。また、市からの依頼により、身寄りのない方の受け入れを行っている。	主に管理者や計画作成担当者が市や地域包括支援センターの担当者と連絡を取り、日頃の事業所の様子を報告したり、行政担当者からも身寄りのない方の受入要請がある等、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の状態に合わせ、委員会やスタッフ間で情報共有を行い、拘束のない介護に努めている。	職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。ベッドからの転落の危険性がある方に対して4点柵を使用しており、2ヶ月ごとに解除に向けて検討会議を行っている。また、年3回、身体拘束廃止について内部研修を実施している。	身体拘束による弊害について理解を深め、環境や支援方法の見直しを常に行い、早期の改善を期待する。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内に委員会を立ち上げ、定期的な会議、勉強会を行っている。また、定期的にユニット毎で勉強会を開催し、虐待が行われないように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	インターネットや本より情報を集め、勉強会を行っている。わからないことがあれば、入居者様の後見人になられている司法書士の方に相談している。	契約時に権利擁護に関する制度の説明を行っている。成年後見制度を活用している利用者があり、関係機関と連携を取っている。年1回、権利擁護について内部研修を開催して理解を深めている。テキストや研修記録が整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、必ず施設の特徴種類等を説明し、不安や質問がないか確認しながら、対応している。看取りや緊急時についても十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の面会時や電話にて入居者様の状況報告を行い、ご意見ご要望を伺っている。また、外部相談窓口センターを玄関に貼り、合わせて説明している。	利用者の意見については、日頃の会話から汲み取り、食事や外出の要望に応じている。家族の意見は、以前は交流会を開催していたが、コロナ禍で面会時のみ顔を合わせる程度となったため、ケアについての心配ごと等を職員側から積極的に聴き、対応するように心がけている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者様の状態が変わった時等ユニット会議を開催し、入居者様のカンファレンスを行うと同時にスタッフからの意見等を聞き、業務に反映している。	管理者は、毎朝の申し送り等を通じて職員の意見を聞くようにしている。利用者の日頃の活動やレクリエーション等は、職員のアイデアを積極的に活用している。また、必要に応じて個別面談の機会を持つようにしており、様々な課題について職員と話し合い、業務改善やサービス向上に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者より、職員個々の努力や実績を含めた給与や賞与の改善に努めている。残業は極力無くす様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	男女問わず採用し、新人職員に対してはベテランスタッフが付いて指導している。業績によっては、管理者が直接指導している。	職員の採用については、性別や年齢等に制限なく幅広く行われており、定年後も再雇用で生き生きと働いている職員も多いため。事業所は資格取得の支援や、必要に応じて研修受講を勧める等、人材育成に努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表及び管理者、主任が積極的に他スタッフの手本となる様に入居者様及びご家族様に接している。人権に関する勉強会を定期的に行っていないので、今後は、計画を立てて実行していきたい。又、外部の研修にも積極的に参加したい。	人権教育・啓発活動については、内部研修を予定していたが、実施に至っていない。	人権について職員が学ぶ機会を設けてほしい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量により、必要な研修を受けられるように調整している。現在、ユニット毎に勉強会を行っているが、施設全体での内部研修を行うなど、一層力を入れていきたい。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナウイルスの影響もあり、交流が図れていないが、今後はオンライン等を活用し、交流が図れる様に工夫をしていきたい。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の要望等を聞き取り、ケアマネを筆頭に、スタッフ間で意見交換を行い、各入居者様に合わせた対応している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が面会に来られた際や電話にて状況報告を行い、ご意見やご要望を伺っている。頂いたご意見等は現場にフィードバックし、対応の検討を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時入居者様の状況を観察し、ご家族の希望を取り入れながら、ご本人様の状態に合ったサービス提供を行っている。その際、主治医や自治体への相談確認を行い、適切に対応できるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや下膳など、入居者様が出来る事は見守りながら行って頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍以前は年2回の家族会を実施し、定期的な交流を行っていた。現在は、面会時や電話にて近況報告を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ウイルスの影響で頻度は減っているが、入居者様の希望に沿って、感染対策を行った上で外出の支援をしている。	入居時のアセスメントの中で、利用者の馴染みの関係や場所について情報を収集している。入居後も友人等との関係が保たれるように電話を取り次いだり、以前住んでいた場所に立ち寄る等の支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者様の性格や相性を考慮し、リビングでの席の配置を調整したり、ソファを設置し、入居者様同士が話しやすい場をつくらしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも、相談等あれば、常時受け付けて対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様やご家族様の希望を優先し、出来る限りの対応、食事・外出・入浴日の対応を行っている。入居者様本位の介助を心掛けている。	職員は、日々の関わりの中で利用者の意向を確認し、支援につなげられるよう努めている。意向を伝えることが困難な利用者については、表情や態度から汲み取り、利用者本位の生活ができるよう努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の居住地、病院や、ご家族様、包括、民生委員の方々より、情報を頂き、スタッフでカンファレンスを行い、介護計画に反映させている。又、本人様との会話の中で情報を探し、計画に活かしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の入居者様との会話やスタッフの申し送り、ケース記録により、入居者様の現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に、本人様やご家族の意見を聞き取った上で、ケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	2ヶ月に1回、介護計画に対するモニタリングを実施し、介護計画書は半年ごとに職員間で話し合っ更新している。家族や職員、医師等の気づきや意見を反映しながら、本人本位の計画を立てている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入をしっかりと行い、入居者様の言動、思い、その時の状況、スタッフがかけた言葉も、記録として残していきたい。スタッフ間での情報共有や介護計画の見直しに活用したい。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルスの影響により、外出制限はあるが、密を避ける形での対応を取っている。基本的には本部に確認し、柔軟に受け入れが出来る様な体制を取っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状はコロナウイルスの感染状況を見ながら、活動を自粛している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、提携医療機関の説明を行っている。施設方針としては提携医療機関を勧めるが、ご家族様、入居者様の希望があれば、提携外医療機関への通院介助も行っている。	入居後も引き続きこれまでのかかりつけ医を主治医として医療を受けることができる。歯科医の往診もあり、職員は口腔内のケアの方法について指示を受け、実践している。他科受診は事業所が通院の支援をしており、家族と受診時の通院介助の方法や情報の伝達方法について話し合っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介助時に異常の早期発見に努め、異常がある際には直ぐに看護師へ報告している。又、看護師も入居者様へ関わっている為、状態により適切に対応している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、電話等にて病院看護師を通じ担当医師へ状態確認を行い、結果をご家族様へ報告している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にターミナルケアについて説明を行い、ご家族様へ理解を頂いている。又、ターミナル期になられた際には、定期的にカンファを行い、今後の方向性についてご家族様と話をしている。	重度化や終末期に関する指針を明文化しており、入居時に家族へ説明し、同意を得ている。重度化した場合は、家族の意向を確認し、入院への対応や訪問看護の受入等、方針を共有してチームでの支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での勉強会やヒアリのハットの情報共有などで事故発生時の対応について意識付けを行い、適切な対応が出来るように努めている。また、急変時の対応一覧を掲示している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災に対する行政の指導もあり、消防署はもちろん地域消防団の地区の方を含んだ協力体制の訓練を行っているが、現在はコロナウイルスの影響で行えていない。	年2回、災害に対する総合訓練を実施しており、実施記録も写真付きで整理しているが、夜間想定訓練は実施していない。コロナ禍のため、消防署や地域住民への協力依頼ができていない。台所に飲料水は準備しているが、非常食やその他備品は整備されていない。	年2回のうち1回は夜間想定訓練を実施し、消防署や地域住民の協力の下、利用者が安全に避難できるような体制を築いてほしい。また、飲料水以外の非常用食料や備品等の適切な備蓄を揃えてほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重した声掛けや介助を意識して行っている。	職員は、日頃から特に排泄介助や入浴介助時は視覚的かつ言葉使いに注意して支援するよう努めている。年間計画に接遇に関する内部研修があり、意識を高めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を話しやすい環境づくりを心掛け、訴えの傾聴に努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間、入浴等希望に沿った対応を心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様やご家族様の希望を取り入れ、男性の方には髭剃りを行ったり、訪問理美容を利用した理美容の支援を行っている。また、衣替え等支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立度の高い方には、茶碗の洗浄や食器拭き等手伝ってもらっている。また、季節に合わせて行事食を提供している。	食事は3食とも事業所内で調理したものを提供し、調理する音や匂いが利用者の食欲増進につながるよう配慮している。職員は利用者一人ひとりの嗜好を把握し、献立に取り入れている。利用者は食事の片づけを手伝い、夜勤職員は利用者と同じ食事を摂っている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のバイタルサインのチェック、排泄確認を行い、個々の状態に応じた料理法により支援を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ってもらい、必要に応じて介助を行っている。又、週1回ないし必要に応じて訪問歯科による指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄パターンを把握する事で、排泄困難な方もトイレ誘導が出来る様に支援している。	排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。また、おむつやパットを使用する際は、時間帯や尿量等に合わせて、利用者一人ひとりについて常に見直している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の申し送り時に、排泄の報告を行い、医師の指示も含め、緩下剤の調整を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日以外でも、失禁による汚染時等は適宜対応している。拒否があり入浴出来ない時は、出来るだけ希望に応じて入浴して頂ける様にしている。	職員の勤務体制により、入浴は週2回としている。入浴を望まなかったり、体調不良の利用者については、清拭をする等して対応している。	日頃から入浴回数を決めずに、利用者の希望に合わせた入浴支援を行うことに期待する。
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的な訪室を行い、空調調整、換気を行っている。本人様の希望に沿って、午睡等も取って頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方後、看護師が確認し、変更があれば常時介護スタッフへ申し送りを行い、確認している。後発薬であれば特に、看護師、薬剤師、介護士共に確認し、変更後は状態観察に努め、担当医へ報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のいっしょ会（レクリエーションの時間）で歌やゲーム、体操を行い、楽しんで頂いている。又、家庭菜園や花壇の草取り等を一緒に行ってもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り入居者様の希望に沿える様に対応しているが、現状コロナウイルスの影響の為行えていない。	散歩や日光浴、ティータイム、コスモスを見に行く等の外出を支援し、利用者が楽しい時間を過ごせるよう心がけている。今後は、コロナ禍前に行っていた家族同伴での墓参りや外食等、感染状況を見ながら再開する予定である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理出来る方が少ない為、事務所で小遣いとして預かっている。外出時には介助し、ご本人様に支払って頂く事もある。又、ご自身やご家族様の希望があれば少額お渡しし、ご自身で管理して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等へ電話したいと申し込みがあった際には電話をかける支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は特に清潔に保ち、玄関には花や観葉植物を飾り、季節感を感じてもらう様にしている。又、室温等についてはスタッフが管理している。	利用者が普段過ごすリビングや廊下は、シンプルで落ち着いた雰囲気である。特に、2階は日当たりが良く、四季の移り変わりを眺めることができ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。階段は転落防止のためのガードが設置してあり、開け閉めが音で分かるようベルを付けている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、廊下にはベンチを置いている。個人の席については状況確認をしながら、変更したりしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を持参して頂き、自宅にいる様に感じてもらっている。	居室は全部屋フローリングで、クローゼットやエアコン、ベッドをあらかじめ準備している。使い慣れた生活用具や嗜好品の持ち込みが可能であり、家族写真やテーブル、テレビ等が持ち込まれる等、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴の時等、自力にて出来る所はご自身で洗身して頂き、出来ない所はスタッフが介助している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに提示して、申し送り時に理念をスタッフ全員で唱和し意識付けをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、交流会で一緒に食事会をして交流を深めていたが、現在は、地域の掃除や行事活動に参加しているが、頻度は少なくなっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同地区で行われる認知症サポーター養成講座に参加して情報共有していたが、コロナウイルスの感染拡大により自粛している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、現在は運営推進会議を書面にて開催しており、確認して頂き意見を頂いて、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告等すぐに提出して確認してもらい、意見・対応等アドバイスしてもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会及び施設スタッフの間でミーティングを行い、拘束のない行為・介護に気を付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	社外研修に参加して施設内で共有したり委員会を立ち上げて定期的な会議、勉強会を行い、身体拘束・虐待をしないと意識付けしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度について勉強会を開き、理解する様に努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明して理解・納得をして頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にて状況報告して、ご意見ご要望を伺っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ユニット会議を行っており、意見を出している。いつでも意見を言える雰囲気や関係づくりに努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績が給与に反映されている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	介護未経験者・男女問わず採用している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動に取り組み、利用者の人権を尊重する接し方に努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行っている業務に自信がない場合、業務に慣れるよう指導者と共に行う機会を作るようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナウイルスの影響もあり、交流が図れていないが、オンライン等を活用し、交流を図りたい。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の生活の中で、本人の訴え・意見があれば記録している。申し送り等で意見交換している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランの中で確認して、要望があれば聞いている。要望等は現場にフィードバックし、対応の検討を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族の要望や本人の希望を聞き、カンファレンスを行い、サービス実施を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活している事を感じてもらえる様に、一緒に話す事・喜怒哀楽を共に分かち合っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から連絡を取りコミュニケーションを取る様になっている。受診も必ず報告している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に沿って、連絡を取ったり、感染対策を行った上で外出したりしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、入居者の状態を確認して会話等出来る様になっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも、相談や連絡等を随時受け入れている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向や思いを確認して出来る限り実現できるよう努めている。困難な場合は家族と相談している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴やサマリーで確認し、ケアプランや日々の生活の中で反映出来る様にしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、バイタル表で、状態の変化をすぐに把握出来るようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様がより良く暮らせるよう何をすべきか、ケアプランやミーティングで検討する機会を作っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に全て記入し、特に重要なことは申し送りノートで情報共有している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況やご家族の要望により、病院受診や外出支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策を行った上での外出支援に取り組んでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と話し合いされた上で、事業所と連携のあるかかりつけ医を受診している。状況に応じて提携外病院への受診を行い、適切な医療を受けられるようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護に入ってもらい、異変があればすぐに相談、受診に行ける様にしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は着替えや洗濯物の回収をし、その際に近況を伺うようにしている。また、知り得た情報は家族に報告している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアの看取りの説明をしており、ターミナル期には家族、医療機関と連携して、出来る事を支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、応急手当や対応出来る様に講習や研修に参加する様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災等行政の指導や運営推進会議で、地域の協力を呼びかけているが、現在はコロナウイルスの影響で行えていない。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、目上の方だと意識して、気を付けて言葉かけ等対応している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから決めつけず、選択肢を作る様に働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活に合わせて、職員が動く様にして支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昼夜の区別が分かる様に、洋服の着替えを必ず行っている。又、2か月に1回訪問理美容を利用した訪問理美容の支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが食事を作り、本人が食べたい物を聞く様になっている。又、季節に合わせて行事食を提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて刻み食やミキサー食にしている。水分は勤める様に声掛けをしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行っている。訪問歯科にてフォロー、義歯の消毒は毎日実施している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄の時間帯・パターンを把握し声掛けを行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックをして記録し、予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的に入浴日を決めているが、汚染時にシャワー対応している時もある。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない様にしているが、本人の希望により昼間寝ている事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等をバイタル表に貼り付けて確認している。看護師と連絡を取り、確認しながら理解する様にしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーション・ラジオ体操・歌やゲームをしている。職員同行で散歩して楽しんでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事で、桜やコスモス見学等ドライブに行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が困難な為、事務所で預かっている。本人の理解を得る働きかけをしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話や手紙のやり取りができる様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃をいつも行い清潔にしている。温度調整等して居心地の良い空間作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて席を変えたり、ソファーに座り利用者同士で会話してもらっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人家具の配置を使いやすい場所に設置している。本人の居心地良い空間で過ごせる様に工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ誘導・入浴等安全に使用出来る様に、スタッフが介助を行うなど安全な環境作りをしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
			○	③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		